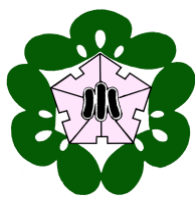


教育目標：よく考え 進んで学ぶ子
正しく判断し 行動できる子

自分も友だちも大切に
する子 体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

高松

令和6年2月1日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011

立川市高松町1丁目12番25号

TEL 042-523-5238~9

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <https://www.tachikawa-edu.jp/es05/>



児童の発想から

副校長 上野 徹

学校の教育活動には、教師がきちんと教えて児童に身に付けてもらうべき内容が学年等の発達段階に分かれ、たくさんあります。もう一方で、児童の発想を生かして進めることができる内容もあります。それは、各学級や学年の授業にとどまらず、委員会活動、クラブ活動など、学校生活におけるあらゆる活動において、取り組んでいます。今号では、年明け、特に活発になっている児童の発想を生かした活動のいくつかを紹介します。

まずは、ユニセフ募金の活動。本校でここ数年は取り組んでいなかった新たな活動です。昨年末に代表委員会から発案があり、以来、1月16～18日の募金期間が終わるまで、代表委員会児童の説明や呼びかけが熱心に行われていました。時には、劇風のやり取りを録画してクロームブックで流したり、自分たちで調べたことをまとめあげた掲示物を会議室に展示して休み時間に案内したり、大寒直前の寒風が吹く朝早くから大きな声で呼びかけたり…などなど。その結果、全校児童や（おそらく保護者の皆様も）本校教職員の分も合わせて15万円を超える金額を集めました。私がこれまで他校で同様の活動に携わった中では、聞いたことがない金額です。もちろん、本校の学校の規模や、元日の午後に起きた能登半島地震の義援金としても募金させていただくことに対する皆様のご理解など、複数の要因が重なったことは言うまでもありません。ただ、心に留めてほしいのは、この活動が児童の発想や思いから生まれた活動であったことです。中心になって活動した子どもたちだけでなく、全校のみなさんの心に残れば、それは学校の貴重な文化として引き継がれる可能性があるかと、胸が高鳴る思いです。

次は、2月15～17日に開催する展覧会です。現在、どの学年も作品の仕上げ段階に入っています。そして間もなく、お子さんのコメントが入ったプログラムも各家庭に届きます。本年度の展覧会には、「どんな思いがみえるかな」というテーマを添えました。展示された作品やタイトル、作品説明などから作者の想いを感じることを、作品鑑賞のめあての一つとしています。保護者の皆様におかれましても、ぜひ、それぞれの作品がどんな発想から作り出されたかを想像しながらじっくり鑑賞いただければと思います。さらに、「お家に帰って感想をご家族で交流していただけたら」という思いもあり、**前開催時より1日多く鑑賞期間を設定してあります**。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

最後は、年度の後半になって盛り上がりを見せている各種の発表や集会から。昨年末のダンスクラブ発表会やこだま学級和太鼓発表など、児童が体育館等に集まって行うものもあれば、各教室をリモートでつないでやり取りを交わす集会委員会企画のゲーム集会、校内各所を回りながら掃除への関心を高める環境委員会企画のスタンプラリーなどもあり、バラエティに富んでいます。2月末には全校で「一発芸大会」という企画も進められています。どれも、児童の発想を生かしたものになっています。（紙面の関係で一つ一つを詳しく触れることができないのが残念です…）

ここまで紹介してきたそれぞれの活動は、どれも、児童の発想のみで完結するものではありません。そのきっかけや活動中の様々な取組には、教師の「種や仕掛け」が満載です。そして、教師側にも、子どもたちの側にも、生みの苦しみを味わう場合がほとんどです。しかし、それらを乗り越えた先に、予測不能な社会に出ても生きる力が身に付いていくものと考え、子どもたちと一緒に取り組んでいます。もし、ご家庭でお子さんが楽しそうに語ることがあったら、耳を傾けてみてください。